

市民と市長のタウンミーティング要旨

日 時：令和6年6月30日（日） 14時30分～16時30分

場 所：コミュニティセンター上草柳会館集会室

テ ー マ：新総合計画及び市政全般

参加人数：15人

○参加者からの意見等

【意見】

- ・ 南大和相模原線は相模原市と接続する重要な道路であるが、中央林間内山地区の整備は進んでいない。
- ・ 人口も大和市と相模原市を合わせると約100万人と多く、昔に比べると大きな車も増えているので、両市を行き来する場合、国道16号以外では小田急線沿いの狭い道しかないため不便である。
- ・ 南大和相模原線は、公共施設、病院、大型ショッピングモール、小田急線の各駅など、生活に直結するものが揃っている。
- ・ 今後の地域連携を見据えて相模原市との接続を実現して欲しい。
- ・ 道路は年数が掛かるので、少しでも早く完了することを要望する。

【市長】

- ・ 私は広域連携を重視しており、近隣市長に声をかけて、道路をはじめ様々な観点で話し合いをしている。
- ・ 綾瀬市のスマートインターチェンジや海老名市のインターチェンジなど道路整備によって、まちが大きく発展を遂げていることから、大和市としても上瀬谷の「GREEN EXPO」やその後のテーマパークなどを見据えた道路整備計画を策定し、生活道路の安全を確保するとともに企業や若者を呼び込んでいきたい。
- ・ おっしゃる通り、道路の整備には時間を要するので、少しでも早く改善できるよう取り組むので、今しばらくお待ちいただきたい。

【意見】

- ・ 市民が自慢したくなるようなまちになって欲しいと思っている。
- ・ 大和市には緑の基本計画などの取組を通じて、緑の保全に努めていることは承知しているが、つきみ野・公所地区は開発が進み、緑の減少が著しい。
- ・ 北大和小学校の東側にあった大きな緑地は、宅地造成されることになったが、児童数も多く敷地が手狭になっているので、学校の敷地にできたらよかったと思っている。
- ・ この辺りに相模下鶴間城があったとされているが、知らない人が多いため、地元の歴史を知れば、お城があったところに学校があると自慢したくなると思うので、案内板などを設置することを提案する。
- ・ 外国籍の夫の住民票を取得するために、中央林間分室に行ったところ、申請

の案内の翻訳は市役所本庁舎のみであると言われた。

- ・ 翻訳文はコピーすれば対応できるのではないかと思う。
- ・ 川崎市は「外国人サミット」を通じて意見しているようなので、大和市でも実施して欲しい。
- ・ 厚木基地について、横須賀市のように米軍と交流してはどうか。
- ・ タウンミーティング以外に市に意見する方法を教えて欲しい。

【市長】

- ・ 北大和小学校が手狭になっていることは承知しており、子どもたちの学習環境が少しでも改善できるように取り組んでいく。
- ・ 緑については、手付かずの自然を残す考え方もあるが、ある程度管理が必要と考えており、自然と共生していくことを目指していく。
- ・ 北部では、つま自然の森を人と自然が調和した場所として保全していきたい。
- ・ 下鶴間城については、案内板などの設置の可否について検討していく。
- ・ 大和市は外国籍の方が多く住んでいらっしゃるので、窓口の案内についてはコピーを置くことなど対応できることはやっていく。
- ・ 「外国人市民サミット」は大和市国際化協会が開催しているが、開催情報が届いていないのは大変残念である。
- ・ このことに限らず、市に関する情報や魅力の発信力が弱いことが課題で、YouTube、TikTok、X、InstagramなどのSNSを活用した動画によるPRに力を入れていく。
- ・ タウンミーティングを総合計画の策定後も継続して実施していく。
- ・ 市に意見を提出できる制度として、必ず私が目を通し回答もしている「市長への手紙」があるので、ぜひ、ご利用いただきたい。

【意見】

- ・ ガーデナーと学校ボランティアをしている。
- ・ 先日、大野原小学校の校庭に花壇を作って欲しいと相談があり、花壇の再生と使われていなかったプランターを活用して対応した。
- ・ 授業で使う畑として南側にある民地を借りているのだが、施錠して管理しているため利便性が悪かった。
- ・ 代替地として学校敷地内を探したところ畑であったと思われる場所を発見し7割ほど再生することに成功した。
- ・ これまで学校ボランティアを3校経験しているが、どこの学校も花壇や畑が放置されている。
- ・ プロのガーデナーでも、花壇や畑を造るには相当の時間がかかるので、オーバーワークにある先生が対応することは難しいと感じている。
- ・ 他の学校の話になるが、手間暇かけてやってきた花壇や畑のボランティアを突如断られ、今は荒れ放題になっている。
- ・ 学校側の考え方によって、ボランティア活動が継続できなくなるのではなく、

継続性を持ってボランティア活動を受け入れるようにしてもらいたい。

- ・ 学校長の判断でSNSの配信を止められることもどうかと思う。
- ・ 学校の備品や消耗品などの予算執行について、海老名市は柔軟に対応していると聞くので参考にして欲しい。

【市長】

- ・ 学校ボランティアへの協力に感謝申し上げる。
- ・ 先生方の不足は全市的な課題で、定年後の先生に協力していただいて凌いでいる状況で、先生を目指す若者世代の減少、日々の膨大な業務、保護者との関係性など様々な要素が不足の原因と捉えている。
- ・ 児童クラブの支援員も不足しており、担い手そのものも少ない状況であるため、支援員や補助員のサポートを地域の方に協力していただくような形、大和スタイルを見出していきたいと考えている。
- ・ ボランティア活動に学校側の手が回らない状況を解消するには、同じように地域の方の協力を仰ぐ必要があると考えている。
- ・ SNSに関してはプライバシーの問題もあり慎重にならざるを得ない部分があるかと思うが、このことも先生方の不足が続いて余裕が持てないことも原因ではないかと考える。
- ・ 先生不足を解消するには、先生方の負担を減らすことが必要と考えており、それができるよい方法を見出していきたい。
- ・ 海老名市の学校の予算執行に関しては、ご意見を関係する所管課に情報提供し対応の可否を検討していく。

【意見】

- ・ 病児保育について、中央林間の病児保育室が閉室すると聞いた。
- ・ 大和市の姿勢として男女共同参画の推進、女性の社会進出を応援するとともに、「子育て王国」ということも打ち出しており、これを両立させるためには、元気な子どもだけでなく病児への支援も大事ではないかと思う。
- ・ 病児保育室の代替案としての広域連携や、ファミサポがあることも理解しているが、現実問題として、通勤経路から外れる施設に送迎する負担は大きく、金額面で高いファミサポは若い世代にとって厳しい。
- ・ 市営の施設を増やす、事業者への補助金額を増額するなどして、市内の各駅に一か所ずつ病児保育室があるといいなと思う。
- ・ 市長の病児保育に対する考え方や、今後の方針についてお伺いしたい。

【市長】

- ・ 病児保育は重要な子育て支援のひとつと認識している。
- ・ 国の制度に則った枠組みの中で、病児保育事業を行う事業者に対して支援をする形で、市として出来る限りの対応をしていることから、国や県に対して病児保育の充実を要請していきたい。
- ・ 病児保育について、近隣自治体との広域連携も含め、様々な視点から検討を行っていくので、ご理解いただきたい。

【意見】

- ・ 自治会長などの経験から地域活性化の重要度が高まっていると感じている。
- ・ 茅ヶ崎市は大和市とほぼ同じ人口だが、コミュニティセンターの数が11館と大和市の20館と比べると約半分である。
- ・ 大和市のコミュニティセンターはすべて建設から30年以上経過しており、今後の維持管理には莫大な費用が掛かる。
- ・ コミセンには児童館も併設されているが、放課後児童クラブや放課後子ども教室もあり、児童館の在り方について整理が必要と感じている。
- ・ 今後のことを考えると、コミュニティセンターを統廃合して、茅ヶ崎市と同じくらいの数に減らしてもよいのではないか。
- ・ 新総合計画における3つのまちについて、北のまち、中央のまち、南のまちで8地区に分かれているが、地区社協は11地区、自治連理事区は15地区となっているので、この10年では難しいかもしれないが、今後は街づくりの区分けを地域活動に合わせて整理することも必要だと考える。
- ・ 今後もコミュニティセンターを維持管理するのなら、全体数を減らしつつ、自治会や地区社協の拠点としても使えるように増改築するとよいと思う。
- ・ また、コミュニティセンターは個人利用ができないので、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に立ち寄れるようにすることも重要である。

【市長】

- ・ 地域活動にご尽力いただき感謝申し上げます。
- ・ コミュニティセンターについて、各施設の老朽化が進む中で維持管理経費を考えると、茅ヶ崎市と同規模に減らすことも含めて、その在り方を検討する必要があると認識している。
- ・ ただ減らすのではなく、使い勝手を考えていかなければならない。
- ・ 札幌市のコミュニティセンター、区民センター、地区センターは、バスケットコートが1面取れる広さの体育館があり、雪の季節でも地域の人が身体を動かすことができるよう、地域の特性に見合った造りになっている。
- ・ 地域の皆さんの居場所としてコミュニティセンターは重要と考えており、地域の特性に見合った造りにすること、ご意見いただいたようなことも含めて、その在り方を検討していく。

【意見】

- ・ 今お話しが出ていたコミュニティセンターについて、組織の面からお話させていただく。
- ・ 新しい総合計画では「みんながつながる健幸都市やまと」を標榜されるということで、市内の各地域が個性を発揮して輝けるような計画、施策が大事であると考えます。
- ・ つきみ野まちづくり委員会では、駅前に花を植えるなど、まちをよくしようという考えのもと活動している。
- ・ 高齢化が進む中では、住みよい歩きやすいまちにしたいというニーズも高く、

自治会の枠を超えて、民生委員・児童委員や地区社協とも関係性を深めており、将来的にはつきみ野エリアのマネジメントを行う組織にしていきたいと考えている。

- ・ 市長として、今後の地域活動どのように盛り上げていこうと考えているのか。
- ・ 自治会活動で一番解決が難しく大変なのが、ごみ問題、清掃、不法投棄、リサイクルステーションである。
- ・ 新しいアパートができて、ごみの出し方で住人とトラブルになった場合、一市民が住人や管理会社との交渉するのは難しく、また、市との調整の間に入って大変な思いをすることが多々ある。
- ・ 地域の一歩の課題である、ごみやリサイクルステーションの問題に関して、市がもっと寄り添ってくれるような対応をお願いしたい。
- ・ 加えて、リサイクルステーションの看板が何年も前から内容が変わってなく、多言語対応してないので、外国人にはルールが伝わらない。
- ・ 高齢化が進み、子ども世代が親の代わりにごみを出すのだが、ルールをわかっていないことも多いので、イラストなどを用いた分かりやすい看板を作成することを要望する。

【市長】

- ・ 自治会は地域の宝であると考えており、守っていききたい。
- ・ 災害時に略奪や暴動が起らず、秩序が保たれて協力し合えるのは、自治会を中心とした地域コミュニティが機能しているからこそである。
- ・ 今後については、自治会への支援をしていきたいと考えており、自治会の加入率を上げるために、何らかのインセンティブを付与することを検討したい。
- ・ YouTube、TikTok、X、Instagramで自治会に関するネガティブな情報が多く流れているので、もっとポジティブな自治会のメリットを市が発信していく。
- ・ 先進的な自治会や地域活動の事例を見習って、市民の皆さんに発信していきたいと考えている。
- ・ 現在の地域活動に関しては、自治会、福祉、運動会、文化など、その内容によって市の所管課がバラバラで縦割りになっているので横串を刺してつなげるようにしていきたい。
- ・ 来年度組織を見直す中で、自治会に寄り添えるようにしていきたい。
- ・ 自治会の枠を超えて、民生委員・児童委員や地区社協とも関係性を深めていくことについて、市として協力していければと考えている。
- ・ ごみに関して、私はごみ改革をしたいと考えており、資源リサイクルを進めて財源にする、ごみを拾うのは運を拾うことと意識啓発する、ごみに関連したパトロールを強化するなどに取り組むことで、大和市のイメージアップを図りたい。
- ・ 大和市がいつもきれいでイメージが良くなれば、若者が集まり活気が生まれ、雇用や定住が促進し持続可能なまちになれる。
- ・ リサイクルステーションについては、自治会の皆さんのおかげで維持管理で

きており、心から感謝申し上げます。

- ・ タウンミーティングでは、多くの方からリサイクルステーションの管理が大変であるというご意見をいただいております、将来的には戸別収集することも見据えながら、わかりやすい看板へのリニューアルなど、外国人も含む啓発にも取り組んでいきたい。
- ・ 先日も、資源リサイクルの持ち去りを取り締まることについて、大和警察署長に直談判してきたが、公園内については所有者が判然としないため警察も手が出せないということであった。
- ・ 非常に歯痒い状況であるため、市として対応できることはないのか、法的な観点も含めて検討しているところである。

【意見】

- ・ 関連して、武蔵野市は全市的な市民組織としての自治会や町内会がないが、地域コミュニティの醸成に成功しているので参考にしたい。
- ・ 少子高齢化の中にあって、国も地域コミュニティに関しての対策をはじめているはずなので、全国には武蔵野市の他にも先進的な事例を取り入れるなど対策を講じて欲しい。

【市長】

- ・ 武蔵野市を含めて、自治会に関する先進的な事例を所管課に調査するよう指示する。成功事例を学び、よりよい形にして実施していきたい。

【意見】

- ・ 子どもを取り巻くデジタル環境、インターネット、ゲーム、SNSとの付き合い方について、小学校入学したらすぐ1年生から継続的に授業として教えるとともに、保護者への教育も徹底してもらいたい。
- ・ スマートフォンが普及して当たり前のものとなっているが、そのリスクについて自ら学ばない限り、危険性を意識することはない。
- ・ 各家庭にスマートフォンのリスクが浸透していないと、なんとなく大丈夫であろうということで、持っていないくても、友達のもので触れてしまう。
- ・ 土曜参観で保護者向けの研修があったが、全員参加ではなかった。
- ・ 一部の保護者だけ、学校単位ではなく、市内全校の保護者全員に伝わるようにすべきである。
- ・ 給食当番の白衣について、当番が終わると各家庭で洗濯して次の人にまわしているが、肌の弱い子や柔軟剤の香りがだめな子など化学物質過敏症も増えていると聞いているので、マイエプロンにして欲しい。
- ・ 給食の食材に学校内で育てた野菜を使うことを提案する。
- ・ 学校内の栽培に地域の人でも参加できると、地域のつながりが生まれ、少しではあるが農地も増え食料自給率も上がる。災害時には非常食としても活用できるのではないかと考えている。
- ・ これが実現できれば、新総合計画の骨子案の目標の多くを達成できるのでは

ないか。

- ・ 子どもの未来につながることを、市にバックアップしていただきたい。

【市長】

- ・ 学校の情報モラル教育に関するご意見、給食当番の白衣に関するご意見は教育委員会に伝える。
- ・ ご意見をそのまま対応できない場合もあるが、少しでも改善できるように検討させていただく。
- ・ 子どもたちに地元の野菜や果物を食べてもらいたいと思っているが、全校の給食を賄う量を確保できないため、サツマイモなど一部でも、できるところから対応するよう検討しているところである。
- ・ 持続可能な循環型社会という視点では、給食の残食を堆肥に活用することも検討できればと考えている。

【意見】

- ・ 産後ケアの事業所を始めて1年が経過した。
- ・ 産後～4ヶ月未満の赤ちゃんとママが対象の通所型の産後ケア施設で、1日6時間を過ごしていただいている。
- ・ 産後ケア制度の申請方法や助成券の扱いなどがわからず、本当に大変な産後直後から2か月くらいの間の利用を逃す方もいる。
- ・ すくすく子育て課の皆さんが頑張ってくれて、制度の周知が進んできており、徐々に大変な時期のママの利用も増えてきている。
- ・ 産後ケアは宿泊型、通所型、訪問型があるが、助成券は7枚しかなく、利用者から足りないという声もあるので、助成券の枚数を増やすか、宿泊型、通所型、訪問型、それぞれに分けて発行するなどして欲しい。
- ・ 少子高齢化、核家族化が進む中で、非常に重要な事業と考えており、将来的には近隣市の事業所も利用できるようなになると、よりよい子育て支援につながるのではないかな。
- ・ お忙しいことは承知しているが、産後ケアの現場を視察していただけると、今後の事業展開の参考になると思う。

【市長】

- ・ 産後ケアは今年度予算で宿泊型を追加した。
- ・ 利用いただいた方から好評をいただいているが、申請方法や宿泊型が追加されていることなど、まだ知らない方もいらっしゃると思うので、更なる周知に努めていく。
- ・ 助成券の枚数や使い勝手については、ご意見を所管課に伝え、現場の視察も含めて対応の可否を検討させていただきたい。
- ・ 産後ケアの広域連携については課題もあるが、現在、近隣市の市長と非常に良好な関係を築いているので、将来的に自治体の枠を越えて産後ケア事業所を利用できるように検討していきたい。

【意見】

- ・ 草柳小学校PTAで意見を集約してきたので代表してお伝えする。
- ・ 共働き世帯も多く、PTA役員の担い手がいない状況で、報酬があれば少し状況が変わるのでないかと考えている。
- ・ 自治会、子ども会についても同様に役員の担い手がいない状況で、役員をしてもらえないか声を掛けると、距離を置いたり、脱会してしまう方もいる。
- ・ 子どもたちの登下校の見守り活動についても、対応が出来ないから子どもを登校班から抜けさせるという事例もある。
- ・ PTAや自治会でも何とかできないか頭を悩ませているが、出来ることも限りがあるため、もっと大きな組織で対応することはできないか。
- ・ PTA役員の皆さんも仕事をしている方が多く、集まって会議を開くこともままならないので、会議をデジタルに置き換え、グループLINEでやり取りをするようになっているが、学校との連携についてはアナログなままで、先生方に何かお伝えする場合は、平日午後5時までに学校へ出向いている。
- ・ こういったところもPTA活動のやりにくさに繋がっていると思う。
- ・ いじめの加害者、疑いの場合も含めて、別室登校や出席停止にする制度を設け、些細ないじめも許さないという風土を創って欲しい。

【市長】

- ・ 全市的にPTA役員の担い手が不足している状況は承知している。
- ・ 自治会を含めて、役員や活動が出来ないから脱会するという状況について承知しており、活動内容の見直しやDXを促すようにしていきたい。
- ・ 通学路の安全確保について、PTA、自治会など保護者や地域の皆さんに多大なるご協力をいただき感謝申し上げる。
- ・ 現状で大きく改善することが難しい問題であり、地域活動の担い手不足も含めて、中長期的な課題であると認識している。
- ・ 学校現場に関する貴重なご意見として、教育委員会を通じて学校に情報提供し、子どもたちの環境をよりよくするため、市として出来ることも含めて、方策を検討していきたい。